

せんだん

ドミニカ共和国 特集号

教育目標

心豊かに たくましく のびゆく たのっ子の育成

めざす児童像

がんばる子 やさしい子 のびゆく子

〒791-0522 西条市丹原町田野上方2098番地 1 TEL 68-7548 HP <https://tano-e.esnet.ed.jp/>

ドミニカ共和国との出会いを未来へ！

校長 武藤 真由美

JICA 海外協力隊の現職教職員派遣として本校の井上裕美子教諭が、ドミニカ共和国の音楽専門学校に派遣されています。子どもたちは、オンラインを通して現地の井上教諭とつながり、ドミニカ共和国の様子や音楽の魅力について学んでいます。また、「JICA 世界の笑顔のためにプログラム」の一環として、本校では楽器提供の募集を行い、鍵盤ハーモニカ6台とアルトリコーダー2本が寄せられました。私が11月に JICA 海外協力隊調査団の一員としてドミニカ共和国を訪問する機会をいただき、提供された楽器の寄贈式に参加しました。あわせて、現地で活躍する井上教諭の姿を実際に見ることができる大変貴重な経験となりました。さらに、12月21日に行われた「国際スピーチコンテスト」では、6年生の高嶋良輔さんが代表として出場し、ドミニカ共和国について学んだことや感じたことを堂々と発表しました。今回は、ドミニカ共和国での井上教諭の活躍の様子や楽器の寄贈式、そして国際スピーチコンテストの様子をお伝えします。

今後もドミニカ共和国とのつながりを大切にしながら、子どもたちの学びと成長につなげてまいります。



カリブ海のビーチ



楽器募集のお知らせ



井上教諭の音楽の授業



寄贈式



ドミニカ共和国報告会



ドミニカ共和国からオンライン授業



国際スピーチコンテスト

「ドミニカ共和国との出会い～音楽と笑顔の交流～」

田野小学校 6 年 高嶋 良輔

「Hola!」(オラ)

「Me llamo Ryoushuke!」(メ・ジャモ・リョウスケ!)

「iMucho gusto!」(ムーチョ・グスト!)



これは、今、青年海外協力隊としてドミニカ共和国の音楽専門学校で活動している裕美子先生が教えてくれた、スペイン語でのあいさつです。ドミニカ共和国の公用語はスペイン語だそうです。ぼくは、ドミニカ共和国の言語は英語だと思っていました。また、隣国のハイチと公用語が違うことにもびっくりしました。ハイチの公用語は、フランス語だそうです。これは、それぞれが異なるヨーロッパの国によって植民地化されていたという歴史が関係しているそうです。

ぼくたち田野小学校の児童は、裕美子先生と、先生がホームステイしている家のお母さん「ドミニカのママ」とオンラインで交流をしました。ドミニカのママはとても明るく、「オラ!(こんにちは!)」と元気いっぱい話しかけてくれました。ママは、ドミニカの伝統的なダンス「メレンゲ」を教えてくれました。ママは、ずっととびっきりの笑顔で、のりのりのダンスを披露してくれました。

「レッツ・ミュージック!」

メレンゲを踊ってみると、体が自然に動いて、いつの間にか笑顔になっていました。ドミニカのママから、ダンスを通して、「楽しむこと」や「愉快でいること」、そして「笑顔の力」を教えてもらいました。言葉が通じなくても、音楽とダンス、そして笑顔が、国や文化を超えて、人と人を結びつけてくれたのです。

音楽専門学校の生徒たちの、「マカレナ」という曲を演奏する姿も見せてもらいました。

「レッツ マカレナ!」

バケツなど生活用品を楽器にして、体全体で音楽を楽しむ姿を見て、感動しました。わくわくしました。ぼくは、大好きな音楽がもっと大好きになりました。そんな中で、ぼくたちはある事実を教えてもらいました。それは、ドミニカ共和国では音楽が大好きな人がたくさんいるにもかかわらず、音楽の専門学校でさえ、楽器が十分にそろっていないということです。そのことを聞いて、ぼくたちにも何かできることはないだろうかと考えました。ちょうどそのとき、裕美子先生から「楽器を寄付しよう」という呼びかけがありました。田野小学校でも、楽器の寄付をよびかけ、6台の鍵盤ハーモニカと2本のアルトリコーダーを集め、ドミニカ共和国へ届けることができました。ぼくの家には寄付できる楽器はなかったけれど、今日みなさんにドミニカ共和国のことを伝えることができました。自分の気持ちを、小さな形でも行動にできたことがうれしかったです。

世界には約 80 億人もの人が暮らしています。みんな、それぞれちがう国で、ちがう文化の中で生活しています。でも、人は一人では生きていけません。思いやりをもって助け合うことで、みんなが笑顔になれると思います。

みなさんも、小さなことから始めてみませんか?その一步一步が、やがて大きな一歩へとつながると、ぼくは信じています。

ドミニカのママが最後に言ってくれた言葉、「gracias (グラシアス)」。何度も、何度も、やさしく、うれしそうに伝えてくれました。ぼくたちのほうこそ、心から伝えたいです。

「ありがとうございました。」